



【学校教育目標】人との関わりの中で 真の逞しさを身につけた 児童生徒の育成

泉だより

No.12

令和5年2月1日

京都市立東山泉小中学校

校長 岩田 智典



7年生美術科×2年生国語科 交流授業

1月18日(水)東西の学舎を繋ぐ2年生と7年生の交流授業がありました。題材名は「文字で楽しく伝える～2年生が楽しく学べる絵文字をつくろう～」です。具体的には、7年生が漢字一文字を絵文字にし、それを2年生にクイズ形式で答えてもらうという授業です。7年生は対象が2年生なので、難しくなりすぎないように、わかりやすいように形や色を工夫し、相手のことを考えて漢字クイズを作成していました。そして当日、2年生は7年生のクイズに興味津々です。7年生は少し緊張しながらも2年生の素直な反応に喜び、お兄さんお姉さんという自信のようなものが感じられました。以下が7年生、2年生の感想です。

< 7年生 >

- 私たちの作った漢字を一生懸命考えてくれてありがとう。
「どうしてそう思ったの?」と聞くと、とても詳しく答えてくれたのがうれしかったです。
- 交流会を楽しんでもらえてとてもうれしいです。私たちが作ったクイズを一生懸命解こうと頑張っている姿を見て、私も頑張っていたなと思いました。
また、交流したいな、と思いました。
- 交流のとき、笑顔で漢字を学ぼうとしてくれて、話を真剣に聞こうとしてくれてありがとうございます。初対面の人が多かったので緊張したけど、大きな声で答えてくれたときは私も頑張ろうと思えました。ありがとう。すごく楽しかったです。

< 2年生 >

- 漢字クイズをしてくれてありがとうございました。
わたしが7年生になったら、次はわたしが頑張ります。
- 7年生はとってもやさしいし絵も上手で「こうやるんだよ。」と言ってきて、とてもうれしかったです。
- 7年生のみなさん、今日は最高の1日でした。
絵や字がとっても上手で、やさしかったです。
また遊びに来てね。



コロナ禍の中で途絶えていた、東西の学舎を繋ぐピアサポートの取組が再開できました。「下級生の上級生への憧れ(将来のモデル像)」「下級生から憧れられる上級生の自己有用感の向上」これは、義務教育学校だからこそできるピアサポートの効果です。また、児童生徒の繋がりだけでなく、東西の学舎の教職員の繋がり効果もあります。今回の交流授業の児童生徒の感想から、義務教育学校である東山泉小中学校の強みを再確認できました。今後、様々な学年でピアサポートの取組を続けていきたいと思っています。

8年生「生き方探究・チャレンジ体験」

8年生が3年ぶりにチャレンジ体験に参加しました。コロナの関係で事業所の受入がままならない中、地域の事業所の方々に快く了承していただきました。8年生の児童生徒会長にインタビューし、感想を聞かせてもらいました。

「事業所は三洋化成さんでした。6年のときに出前授業で来ていただいていたので、研究を主にされている会社だと思っていましたが、実際は工場で多くの製品を生産している会社でした。職場体験をして気づいたことは、「働く」ということは人のためになることをするという。誰かの要望を考え、そのニーズに応えるということだと思いました。学校では味わえない貴重な体験ができました。そして楽しかったです。」

4日間の体験を終え、どの8年生もたくましく成長できたと思います。この体験から「働くこと」「将来の仕事」を考える機会にして欲しいと思います。

